

乃村工藝社 #01

WOODY PARTS
Factory Office



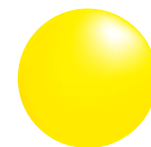
「木」にフォーカスした創造空間で 企業価値をキープ・アップしていく

木材のプレカット加工会社「ウッディパーツ」の工場内オフィスリノベーション。
乃村工藝社は「木」をテーマに、余剰スペースの価値を一気に引き上げました。
企業ブランディングを高める空間づくりのプロセスを振り返ってみましょう。

乃村工藝社 #01
WOODY PARTS
Factory Office

Data

株式会社ウッディパーツ



株式会社ウッディパーツ
SUNNY LIVE GROUP

- | 所在地 | 富山県高岡市
- | 完成日 | 2017年9月
- | 概要 | 木造建築物に使用する構造物をプレカットする工場機能を1階に集約し、2階にはオフィスおよびラウンジ&ショールームを新設。木を最大限に活用した開放的でゆったりとした居心地の良い空間に仕上げた。
- | 受賞歴 | 第21回 木材活用コンクール(平成29年度)「木材活用賞」、DSA日本空間デザイン賞2018「BEST50賞」、JCDデザインアワード2018「銀賞」

およそ400年前、加賀前田家の築城によって開かれた富山県高岡の町。廃城後は、商人や職人が町の発展を担い町民文化が花開きました。いまでも、町民の心意気やものづくりへの情熱が色濃く残る地域です。

ウッディパーツはこの高岡市に工場とオフィスを構え、木材のプレカット加工業を営んでいます。主な取引先は、富山・石川・福井・新潟の北陸4県エリア。住まいと暮らしにかかわる事業を幅広く展開するサニーライブグループの一社として、地元工務店や建設会社と密接な関係を築いてきました。

2つの空間をゾーニングする

ウッディパーツのプレカット工場は3つ。そのうちのひとつ第2工場の2階にあった機材を1階に移したところ、テニスコートがゆーに2面は取れる約530平米ものスペースが生まれました。しかしこの空間はしばらくの間、一部をのぞいてほとんど使われなくなります。

この空きスペースをなんとか有効活用できないのか。ウッディパーツ内では、この場所に本社機能を集約するリノベーション計画が始動し、オフィスや会議室はもちろん、**これまでにない空間を創り出すことで、企業価値の底上げを図ることになりました。**

同プロジェクトの一環として、乃村工芸社デザイナーの越膳博明がウッディパーツから打診されたのは、社員が常駐する執務スペースや会議室をぐるりと取り囲むように広がる周辺空間のリノベーションでした。ウッディパーツは、木とともにその歴史を刻み、住まいの構造を提案する企業です。だからこそ越膳は、徹底して「木」と「木質構造」にフォーカスした空間設計を練っていきます。

「ウッディパーツはどのような歴史を刻み、木材構造の技術革新をしてきたのか」

「取引先や顧客に、ウッディパーツが大切にしている木の文化をどう伝えていくのか」

「新しい空間デザインによって、ウッディパーツ社員と会社の関係はどう変化するのか」

越膳が何度も反芻したこれらの問いは、乃村工芸社がワークプレイスのデザインにおいて**ビジネスの想像力を引き出す3つのテーマ「Innovation」「Branding」「Engagement」**にリンクします。この答えを追求した越膳は、ウッディパーツのアイデンティティである「木」をふんだんに使い、「人が共に歩いていく森林」「人が生活するための木材」「木材に対する知識の継承・伝達」「人が豊かに過ごせる木空間」というクリエイティブ・ワードを導き出しました。

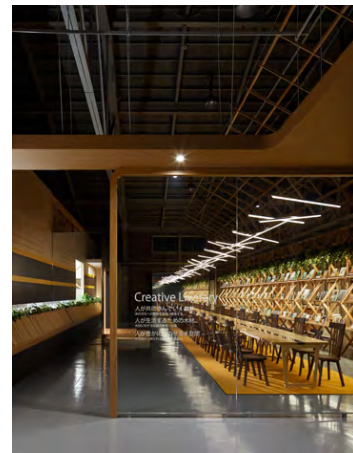
このコンセプトを踏まえた設計デザインでは、工場2階中央にあるオフィスを挟む位置に2つの空間をゾーニングする提案を行います。こうして、来客を迎えながらウッディパーツのコア・バリューを伝えるラウンジ「クリエイティブライブラリー」、そして自社の技術や商品、木構造の魅力を伝える多目的スペース「ショールーム」のリノベーションプランが固まってきました。

ビジネスの創造力を引き出す3つのテーマ

「Innovation」「Branding」「Engagement」

当時、工場長として稼働状況を調整していた垣内和信さんは、殺風景だった工場跡がクリエイティブな空間に生まれ変わる完成予想図を見て、「ただただ驚くばかりでした」と振り返ります。

「設計図やパースを見た最初の正直な印象は、『うちの会社が、本当にこうなるの!?!』でした。施工が始まり、自社でプレカット加工した木材構造を骨組みとして現場に入れたときも、完成イメージがまったく想像できなかったんです」(垣内さん)



「木」を通じた コミュニケーションを

2017年9月、新オフィスとともに乃村工藝社が手がけたクリエイティブライブラリー&ショールームが完成の時を迎えました。垣内さんは初めてこの2つのスペースに入った瞬間思い出しながら、「完成予想図である程度のイメージはありましたが、**実物は想像をはるかに超えて、まさに『圧巻』でした**」と第一印象を話します。

工場2階のエントランスに入ると、大きなガラス扉の向こう側に見えるのが、クリエイティブライブラリーの中央に設置された全長17.5mの長いテーブルです。そして、同スペースには木の風合いを生かした壁一面の本棚と、天井に伸びるように木材のオブジェを配置。テーブルの奥の壁には大きな鏡があり、開放的な空間がさらにどこまでも続くかのような演出を施しています。天井や本棚に配置されたLEDの光がテーブル中央のステンレスや鏡に反射し、抜けの良い空間に光彩が溢れます。

片側の壁一面に作られた書棚に並ぶのは、木をテーマにした約200冊の蔵書。木造建築に関する書籍をはじめ、森林保護や工芸、絵本や写真集に至るまで、青山ブックセンターのスタッフが選書したものです。クリエイ

ティブライブラリーはウッディパーツの社員たちがこれらの本をいつでも手に取ることができ、木に関する学びや新たな発見の場となっています。

クリエイティブライブラリーのもっとも大切な役割は、「木」を起点とした来客との円滑なコミュニケーションです。ウッディパーツには、取引先企業の役員や社員はもちろん、その提携先や施主、就職や転職希望者、さら

には職場体験でやって来た小学生まで、さまざまな人々が訪れます。ウッディパーツの社員が来客にクリエイティブライブラリーの説明を始めると、**訪問者は顔を大きく左右に動かしながらこの非日常的な空間を見渡すこと**になります。

中央のテーブルを一直線に切れ目なく配置している理由は、社員と来客が話をしながら時間をかけて端まで歩き、ぐるっと回り込ん



パンフレットやウェブサイトでは伝えられない
立体化した「会社案内」のような空間。



で対面の席につき、商談を始める流れを作るためです。ゆっくりと歩を進めると、木材のオブジェの隙間からむき出しの天井の骨組みや水シミのついた壁、ひび割れた床が目に入り、歴史ある工場の名残を感じることが出来ます。さらに、実際に加工している細長い角状の木材を誰もが触れられる位置に置き、自由に取り外ししながら触れられるようにしています。垣内さんは、この視線の動きまで計算した緻密な導線設計や空間づくりに強く興味をひかれました。

現場で使う板材を展示し、

来場者に触れてもらう

工夫を取り入れた

「木は日焼けする素材です。天井から入る光に照らされた木材を手にとると、日焼けして色の具合が変わった様子を観察することができます。ある木は飴色だったり、その横は同じ素材でも白っぽかったり。実際の住宅でも、いずれ年月が経つとこうなるといふ様子を見られる場合は、きれいなだけのショールームでは体験できません。長いテーブルや書籍も会話のきっかけになり、これまで以上に訪問者との会話が弾むようになりました」(垣内さん)

おしゃれな空間をつかって終わり、
ではない

クリエイティブライブラリーからオフィスエリアの廊下に進み、ウッディパーツの社員が働く執務室を横目に見ながら通り抜けると、まるで美術館のような空間が広がります。ここでは、来訪者に五感で「木」を感じてもらう「ショールーム」。クリエイティブライブラリーと同様、無骨な工場らしさを残しつつ、随所に木材を施すことで、パンフレットやウェブサイトでは伝えられない立体化した「会社案内」を見せているのです。

メッシュ素材を採用したショールームの壁には、ウッディパーツの歩みや業務内容を紹介したパネルほか、木材の基礎知識やプレカット加工の技術を説明した資料を展示しています。さらに、資料写真やイラストだけを並べるのではなく、現場で使う細長い板材を置き、来場者に全体重をかけて乗ってもらうことで、木の「しなり」を感じてもらえる仕掛けも作りしました。

「クリエイティブライブラリーとの相違点として、ショールームはあえて余白を残してある印象ですね。乃村工藝社さんが用意してくれた大きなキャンパスに、我々はどんな絵を描くのか。これは上長が鶴の一声で決めるのではなく、若手社員も含め、社内で行うんな

声を出し合いながら作るようになっていくわけです。このアイデアには胸が高鳴りました。こういったオフィス空間のリノベーションは、採用活動で応募者が入社意思を固める最後のひと押しになっている実感もあります」(垣内さん)

木材の日焼けは、

きれいなだけのショールームでは

体験できない



また、ショールームはイベントなど多目的スペースとして活用でき、地元の子どもたちを対象に木工ワークショップを開催してきました（※コロナ禍においては一時中止しています）。「幼い時に木に触れたり、金槌を持って何かを作ったりする経験はとても大事だと考えています。『木育』への取り組みは、これからもずっと続けていきたいですね」と垣内さんは目を細めます。

こういったウッディパーツの空間活用について、越膳は「オフィスのリノベーションは、おしゃれなデザインで内装を仕上げる→引き渡す→終了ではありません。ウッディパーツのショールームは、木とともに人が成長し続ける場として、『キープ・アップ』というキーワードを意識しました。会社と社員のみなさんのつながりを強くするイメージで、自分たちの場所を自分たちでうまく更新しながら使ってほしいと考えていたんです。予想以上の活用をしていただいて、デザイナーとしてとてもうれしいですね」と笑顔を見せます。

「これからも一緒になって、オフィススペースの価値をさらに高めていきましょう。ウッディパーツと乃村工芸社は、改めて思いをひとつにしました。

撮影：株式会社ナカサアンドパートナーズ

周囲との交流が新たな刺激に

乃村工芸社はウッディパーツの使命とアイデンティティーを深く理解し、未来に向けた技術革新を促す「イノベーション」、社外に向けた積極的な情報発信をサポートする「ブランディング」、社員とのつながりや採用・人材育成を強化する「エンゲージメント」の3つのキーワードを軸に、**ビジネスの創造力を引**

き出す空間設計・施工を行いました。

ウッディパーツは建築物の安心安全を担保し、災害の脅威から人々の命を守る木構造づくりに取り組んでいます。「木」を軸に作り上げたこれらのスペースは、地元の工務店や建設会社、施主、地域の人々、そして社員が交流し、クリエイティブを刺激する空間として、これからも日々アップデートされていくことでしょう。

ウッディパーツならではの特別な空間が、

採用活動にも良い影響を与えている。



株式会社ウッディパーツ

企画開発部部长

垣内和信 *Kazunobu Kakiuchi*

1996年、ウッディパーツ入社。木造在来軸組プレカット製造工程製造系全工程を経験後、生産工程管理、および工場長として工場全般の管理を担当した。ライブラリー、ギャラリー、オフィス施工時は、工場稼働の調整とオフィス躯体プレカット等の新採用技術の加工、施工方法に関わる。現職は企画開発担当として、社業のより発展的な提案、会社PR活動に従事している。



株式会社乃村工藝社

デザイナー

越膳博明 *Hiroaki Echizen*

1979年生まれ。空間デザインの可能性を体現させる事を心がけ、多様な空間創りで培った経験を活かし「ヒト・モノ・コト」を念頭においたアプローチを行っている。主な実績は、「BaxterTokyo」、「Brillia品川南大井コミュニケーションサロンoooi」、「トレーディングポスト青山本店」、「SHISEIDO GLOBAL FLAGSHIP STORE」など。JCDデザインアワード銀賞、DSAデザインアワードBEST50、グッドデザイン賞ベスト100等を受賞。



Profile

Project member

営業・プロジェクトマネジメント

北井琢也、山田佳紀

デザイン・設計

越膳博明

プロジェクトメンバー

制作・施工

平野健太郎

オープン

2017年

クライアント

株式会社ウッディパーツ (<https://wp.sunnylive.jp/>)

業務内容

空間デザイン、設計、設計監理、サイン・グラフィックデザイン、制作・展示施工、制作・内装施工、什器制作、内装監理

受賞

「JCDデザインアワード2018」銀賞、「日本空間デザイン賞2018」BEST50、ほか

Contact Us

問い合わせ先

乃村工藝社

〒135-8622 東京都港区台場2-3-4

workplace@nomura-g.jp

<https://www.nomurakougei.co.jp/>